

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

(報告)

議員名：ガールスカウト日本連盟 浅野万里子

【開催趣旨・目的】

少女に対する暴力をなくすために、少女自身が「暴力を受けない」「暴力をなくすことを訴える」「暴力を受けたときの対処」をできるようになるためのプログラムを開発することを目的とし、主に、高校生、大学生年代の青少年および、青少年教育に携わる人に対してセミナーを開催する。

このセミナーは、2011 年から始まった、世界 145 カ国のガールスカウトが関わる「少女に対する暴力をなくすキャンペーン」と連動している。これは、今後 10 年間にわたり、少女に対する暴力を世界中でなくすために、少女自身が力をつけ行動していくことを目指している。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

少女に対する暴力をなくすためのセミナー

【日時】平成 23 年 12 月 23 日（金・祝）13:00～15:45

【場所】ガールスカウト会館（東京都渋谷区西原 1-40-3）

【参加者数】40 名

【プログラム】デート DV モデル事業、参加者ディスカッション、発表

1. デート DV モデル事業

- ・ DV についての意識調査（アイスブレイクをかね）
- ・「ウィメンズネットこうべ」が高校生を対象に実践している「デート DV」に関するワークショップを体験する
 - 「暴力」について知る
 - ロールプレイを通して考える
 - 「暴力」を受けたら、「暴力」を相談されたら どうするかを考える

2. 参加者ディスカッション

- ・「今から踏み出す第一歩」をテーマにグループディスカッションを行った
- ・少女に対する暴力をなくすために、自分たちができることを話し合った。

【参加者からの主な意見】

- ・今回初めて、このテーマにふれ、今までの考え方が少し違っていたと気がつきました。セミナーを受けて、私の周りにデート DV にあてはまるようなカップルがたくさんいて驚きました。これを機に、ガール内だけでなく、友達にも伝えていきたいと思えます。
- ・この問題について知らない人がまだまだ多い。ジェンダーの刷り込みも大きな原因で、価値観を変えていく必要があると感じる。早いうちから自分の意見を言ったり、相

手を思いやる心を育てたり、中高生に対しては今回の授業のような知ること、気付かせることが必要だ

- ・ 寸劇やDVDなど、(デートDVについて)ととても分かりやすく楽しい授業でした。中学生から、早めに知るべきだなと思います。
- ・ 専門分野の話聞きにきたつもりでしたが、自分のしたこと、されたこと、身近な話ばかりでした。「生きていていいんだよ、そのままでいいんだよ」という深いメッセージを感じました。「暴力」への価値観が変わりました。
- ・ 少女に対する暴力をなくすために、女性だけでなく、男性にもセミナーを受けてほしい。学校、社会、家庭までこの問題に対する関心が持てるよう内閣府として働きかけてほしい。
- ・ 参加して大変参考になりました。これからもガールスカウト活動で少女たちが力をつけられるように指導したいと思います。
- ・ 非常に参考になりました。自分自身デートDVを経験していたので、周りの人の言葉がどれ程大切か、ということは分かっているつもりでしたが、今回のセミナーで支援の大切さを更によく分かりました。資料もたくさんいただいたので、セミナーの内容と資料をもとに、周りに発信していけたらいいと思いました。

【シンポジウム等を通して得た成果(効果)】

- ・ デートDVについて参加者が理解を深めることができた。デートDVはすべての人のごく身近にある暴力であり、それが暴力であると認識されていないことが多い。デートDVは固定的な男女の役割意識や価値観が一因となっている。少女たちが被害者にならないためには自己肯定感を高め、男女かわからずすべての人の価値は同じであることを少女、また少年にも伝えていく必要性を参加者が確認できたのは大変効果があった。
- ・ モデル授業は中高生を中心に講師が実際に行っているもので、ガールスカウトの年長部門やリーダーたちにも活用できる手法を学ぶことができた。専門的に取り組んでいる団体と今後も連携をとりながら、ガールスカウトとして少女と若い女性に対する暴力をなくすために取り組んでいきたい。

【今後の課題】

- ・ ガールスカウトでは、少女と若い女性を中心に「少女に対する暴力をなくす」ための活動を進める教材を作成中である。ガールスカウトでは世界レベルでこの問題に取り組んでいく(グローバルアドボカシーキャンペーン)ため、日本で作成する教材には世界と日本の少女を取り巻く暴力の現状を学びつつ、日本の少女と若い女性の生活のごく身近にあるデートDVに焦点を当てていく。教材作成後は、ガールスカウトの若い指導者が同年代および高校生年代に教えるピアエデュケーションという方法を用い問題の理解とその解決方法を波及させていく予定である。また、一般の少女や若い女性にもガールスカウトから発信し、社会によい影響を与えることを目指している。
- ・ 取り組みを進めるに当たり、専門機関との更なる連携が必要であると考えている。